

シグマ研究委員会  
昭和55年度第6回運営委員会議事録

日 時 昭和55年10月24日(金) 13:30～17:30  
場 所 原研本部 第7会議室  
出席者 原田(原研), 大竹(PNC), 中嶋(法大), 松延(住友原工),  
関(MAPI), 飯島(NAIG), 久武(東工大), 更田, 田中,  
五十嵐, 菊池(原研)  
オブザーバ : 松本, 浅見哲(原研)

配布資料

1. 前回(55.9.4)議事録(案)
2. Memorandum from INDC
3. NEACRP. NEA Data Bankからの資料
4. 「JENDL-3に関するアンケート調査」の結果
5. アンケート調査に対する検討小委員会の見解

議 事

1. 前回議事録確認  
資料(1)により確認を行った。
2. 事務局報告
  - (1) 本年の研究会の名称を「討論会」とすることにした。
  - (2) 来年2月に行われる核融合講演会(工業技術院・筑波学園センター)で原田氏が核データと原子分子データの活動について講演することになった。
3. INDCからの宿題  
原田氏から資料(2)により INDC から問合せのあった次の2件について説明があり, 討論を行った。
  - (1) IEA Advisory Group Meeting on Nuclear Data for Radiation

## Damage and Safety (56年10月開催予定)

この会合に対するコメントをIAEA/NDSに送るために、damageについては原研の下川、長崎氏に、Safetyについては天野(恕)氏に依頼して検討中である。

## (2) Symposium in 1983 on the Significance and Impact of Nuclear Research in Developing Countries

このシンポジウムに対する返答のためだけでなく、この問題の長期的な展望を討議しておく必要があることから議論を行った。この種の会議には核データ関係も入れるべきであること、当面はgiveだけになるが、man powerの点で期待できる可能性もある等々の意見が出た。

## 4. NEACRP会合からの情報

田中氏から資料(3)によりNEACRPのCampbell氏より提案されているNEACRP/NEANDC Working Group Meeting on European Evaluation Proceduresについての説明ならびにNEA Data BankのTubles氏にこの会合の情報を連絡してくれるように頼んだことの報告があり、議論を行った。主な意見等は次の通り。

- NEANDCとしてはどう考えているのか。
- このような動きについてどうこう云うのではなく、ヨーロッパの統一ファイルができるとき日本はどうするかが問題だ。
- 日本はJENDLがあるし、ヨーロッパでも汎用のライブラリーが欲しいと云うのが本音ではないか。
- ENDF/B-Vが非公開であることに対する対抗措置ではないか。
- 日本は遠いのでWGに加わるのも大変。日本だけがこのまゝ独自でJENDLをやるのでは太刀打ちできないのではないか。
- 今までの議論ではJENDLを作るときの精神が忘れられているのではないか。日本独自のものが必要であった筈。
- 米国の動きを見てから日本がどうすべきかを決めてもよい。
- シグマ委の委員長名で、日本の立場とこの問題に関心のあることの意志表示ならびに共通な問題について討議する場を提案したらどうか。

等々で、ともかく情報を流してくれるようNEAに依頼することにした。

#### 5. JENDL-3 検討小委員会中間報告

田中氏より資料(5)にもとづき10月20日の検討小委の討論の概要を中心に報告が行われた。その中で、JENDL-3に関するアンケート調査結果から実現可能なスコープを作るに当たっての検討小委の見解ならびに問題点が説明された。討議の結果、中性子生成のDDXデータについては炉定数専門部会内にWGをつくってやる方法もあること、JENDL-3の作業量を更につめる必要があること、JENDL-3との関連でJENDL-2のスケジュールを明確にしておく必要のあること等が指摘された。これらの詳細については、核データセンターでつめることになった。

#### 6. 中国訪問団

田中氏より中国からの訪問団と9月22日に東大炉で、9月24、25日に原研で討議、情報交換を行ったことが報告された。この中で、中国の核データセンターの人員の多いことが話題になった。

次回は、11月28日(金)に東海研で行う予定